

Title	理財学会会報
Sub Title	
Author	
Publisher	三田学会
Publication year	1914
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.8, No.5 (1914. 6) ,p.622(116)- 625(119)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	広告
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19140601-0117

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

其所論正確引證亦該博にして誠に好箇の卒業論文たると共に、同氏が著述として其要を得たるものなり。されば單に一編の卒業論文として葬り去るは惜むべきものとなし、一度銀行通信録に掲載せられしが其後別冊として、刊行せられたるものなり。

第一章緒論に於て、銀行集中論研究の必要より筆を起し、其範圍及び心理的基礎を論述し、第二章に於ては、銀行集中の原因に説き及ぼし、是が原因をば、一般的原因及び特別的原因の兩者に別ちて該博なる研究を遂ぐ。凡そ一箇の社會現象を取りて、之が發達の原因を探究するは、甚だ難事に屬す。畢竟是れ幾多粉糾せる社會事情の錯雜混交せるに由るものにして銀行集中の原因を究むる者甚だ少なく、紹介者の知る限りに於ては僅に十指を屈するに過ぎず。之が研究は興味ある問題なり。第三章（銀行集中の形式並に其特質）第一節に於て直接的集中法を、第二節に於て、間接的集中法を論じ、精密なる研究を遂げたり。次に第四章及第五章に於て、銀行集中の私經濟的結果並に國民經濟的結果を論述し、最後の第六章緒論に於て銀行集中の將來なる題目の下に地方銀行の運命並に銀行集中に對する政策を論述し終りに我國に於ける銀行集中運動の大勢に論及せり。

今日歐米先進諸國に於て、銀行集中運動の行はるゝは普遍的の現象にして、各國皆な其經濟事情を異にし、政治的性情を異にし其間に多少の相異なるにも拘はらず、一般的事實として現はるゝは其間何等かの共通的原則の行はるゝにあらざるなきか。

佐野博士は之を以て資本制經濟組織の必然の産兒となせり。著者は此點に著目して綿密周到なる研鑽を遂げたるものなり。本書の如きは、氏の初女作として單に論文の典型たるのみならず、又貨幣銀行研究者の一讀に價ひする著述たるを失はず、必ずや銀行科專攻の士並に後進者を益すべきものあると同時に我國現今の幼稚なる銀行業の將來に於ける大勢を窺ふに好箇の材料を供給するものと信ず。敢て茲に紹介を爲す。（片桐）

○ 廣 告

● 理財學會會報

● マククラレン教授並卒業幹事送別會 既往六星霜の間本學大學部教授として經濟史、經濟學史、憲法史の諸學科を擔任せられ學々として倦まざりしマククラレン教授は四月中旬に故郷加奈太に歸國せらるゝことなりしを以て本理財學會は本年卒業せらる可き本會の幹事の送別を兼ねて二月十三日午後六時より宴を三田東洋軒の樓上に開催す、來り會する者二十有四名頗る盛會を極む會食の後在校幹事の送別の辭卒業幹事の答辭ありてよりマククラレン教授は其の得意の雄辯を弄して過去六年間に於ける感想を述べらるゝこと幾々數千言、一語は一語より急に聽く者をして轉た感慨無量たらしむ、次に鎌田塾長は卒業幹事に對し卒業後の訓戒を與へられ石田本塾幹事、阿部教授の訓

話ありて喜々満々の裡に散會す時に午後十一時半。

● ブカナン教授並新任幹事歡迎會

四日マククラレン氏本學大學部教授の職を辭して歸國せらるゝや其の後任者としてブカナン教授の來塾あり旁々本會幹事として新に就任せられたる人々ありしを以て茲に本理財學會は五月一日歡迎會を三田東洋軒の樓上に開催す來會者は主客ブカナン教授並に新任幹事藤崎、吉村、木谷、木暮の四君を始めとし來賓には氣賀教授、石田本塾幹事、高城教授、レー教授、増井教授及向井塾員の外本會幹事等總て二十有二名なり、宴酬なるに及んで本會幹事齋藤氏は立ち其流暢なる英語を以てブカナン教授歡迎の辭を述べて曰く、「ブカナン氏今や萬里の波濤を越えて氣候、風俗、習慣、言語等察つて異らざるなき東洋の一小島國に來る、斯くの如きは元より人々の以て困難苦痛となす處、而も先生之を意とせず喜び來つて我が慶應義塾に教授たらんとす、吾人はブカナン教授の熱心と、勞苦とを多とせざるを得ざるなり、抑も我が帝國の國を開くや其の先導者たり、指導者たりしものは疑もなく米國なり、先生今や來りて其の祖先の曾て開きし國の青年を黨陶せんとす、また多少の意なからずして可なむ哉、然れども教育の事業たる其の效果の直ちに現るゝものにあらずして、二十年三十年の長年月を待て始めて其の實を結ぶものなり、之を願ふれば教育の事業たるや恰も植林事業の如しと謂ふを得ん哉、吾人は今日に於て先生の我が塾生に及ぼす効果の必ず將來に於

て現るゝことあるを疑はざる者なり」と齋藤氏の著席するや次でブカナン教授は、今夕殊更に余の爲めに此の盛大なる歡迎會を開かるゝは喜びに耐へざる次第なりと云ふを冒頭に「新日本の建設者として日本文明の發達に寄與する所少からざりし故福澤先生の創設に係る此の慶應義塾に來りて教授たるの椅子を占むるは余の最も光榮とする所なり」と幾々二十分に亘りて答辭を述べらるゝ、次にレー教授は齋藤氏の言に對し述べて曰く「齋藤氏は日本の開國者は米國なりと云ふも余を以て述べしむればそは米國に非ずして却つて日本國自身なりと謂はざるを得ず」として一七五〇年より一八五五年に亘る百年間は日本に多くの英雄偉人を産みたる時代にして此等の人々は多く蘭書を通じて泰西の文明を吸收し更に後年英書によりて益々其の世界的知識を涵養したり此の當時に於ける日本の状態をものに喩へばこれを將に開かんとする花の如しと謂ふを得んか事情斯くの如き次第故米國が日本を開きしと謂ふは誤りにて日本が將に開國せんとする丁度其の時に米國が日本を訪れしに過ぎず故に日本は自身其の鎖國を撤して開國せしにて開國の効は日本にあり米國にあらずと論じ花を我が國に持たしめて著席するや氣賀教授は簡單にブカナン教授に歡迎の辭を呈し更らにレー教授の演説を謝して復席す、次で本會幹事千金真君は新任幹事の歡迎の辭を述べらるゝ次に新任幹事の答辭ありて最後に石田本塾幹事は立ちブカナン教授來塾の經過に付き簡單に説明を與へ更に語を轉じて

理財學會の現況を報じ本會は今や試験時代に在るものなれば定
めし幹事諸君の心勞一方ならざるものあるべきも今後本會の發
展は諸君の力を俟つてこそ益々大なるものあるべきにより新舊
幹事諸君は一致協力めて本會の爲めに盡力あらんことを乞ふ
と述べて着席するや一同階下の談話室に引きとりこゝに諸教授
を中心として快談に夜を更かし十一時頃散會せり。
因に當夜新二年幹事は舊二年幹事より事務の引き繼ぎを受け爾
後一箇年間理財學會の事務一切を司ることゝなれり

●理財科の學科目變更 此の度本塾理財科にては其の
學科目に多少の變更を加へこれを本年度より實施せり今之れを
舊制度と比較せば次の如し。

先ず順序として理財科一年より始めんに經濟原論の一週三時間
を貨幣論の二時間、經濟政策の三時間、獨語或は佛語の二時間
等は時間數に何等の變更なし隨て新舊共異なるなき次第なり然
れ共舊制度の下に於ては、外人教授の擔任せられし近世經濟史
は阿部教授の擔任となり其の時間數は一週三時間より二時間に
減せり其の他時間數の減せられしは民法及び英語にして、前者
は一週九時間より四時間に後者は三時間より二時間となれり、
新に加入せられたるは、名著研究の二科にして目下のところ
てはブカナン、並にレ教授之を擔任し一週三時間なり(但し
本年度は二時間)其他日本作文の毎月一回は従前の通りなり、
即ち一週間の總時間に於て五時間の減少を見結局二十時間とな

れり。
次に理財科二年に就て比較を試んに變更なき科目はこれを措き
時間數の増減ありしものに就てのみ述べれば民法の一週六時間
より二時間に減じたるを始とし經濟學史は三時間より二時間
減せり、後者は従來外人教授擔任せられたりしも今年よりこ
れを改め、外人教授は新に加入せられたる一週二時間の名著研
究を擔任することゝなり目下一年と同じくブカナン及びレ教
授これが任に當れり、而して經濟學史は高橋、高城兩教授其の
任に當り主として教科書(イングラム氏經濟學史)に依りて講じ
居れり。

次に理財科三年には多くの變更を見ず唯だ一つ注目すべきは卒
業論文にして従來の「英文」とありしが「和文英文何れにても可
」と變せられたることなり。
理財科は大體以上の如く變更せられしも今これを總括して云ふ
時は民法の時間減少せられて新に名著研究なる一科目が一年及
び二年の學科に加入せられ大體に於て一週間の時間減少せり
といふを得ん。

吾人は理財科の組織變更を以上の如く記せしと雖もこれのみを
以ては未だ其の一半を述べしに過ぎず吾人は更に進んで他の一
半を記せざるべからず而して他の一半の變更とは即ち「レクチャ
ー、システム」を變じて「レクチャー、システム」に改めたる
ことこれなり、この變更は外人教授擔當の科目に付てのみの變

更なるが従前の「レクチャー、システム」に於ては學生は只速記
者たるの觀ありしに、これに反して「レクチャー、システム」
に於ては一人の教授は二組約六十人前後の學生に對し一定の教
科書を與へ學生をして其の數頁を集約的に勉強せしめ、教授は
一ち／＼學生に向つて質問を發するの差あり、吾人は教育家に
非ず故に兩制度の得失如何を論ずるの資格なく又其の能力なき
ものなれども前者の學生を化して速記者たらしむるに反し後
者の學生をしてインテンシブに勉強するの習慣を養成せしむ
るの點に於いては後者を以て前者に勝れりと云ふも誤なかるべ
し。此の制度は遠き以前に會て吾が慶應義塾の採用せし所今又
其の復活を見るに至る、吾々慶應義塾理財科に教を受くる者ま
た喜ばずしてかまらんや。

因に此の變更は前記の如く本年四月より實行中なるも二年級の
民法時間の縮少のみは來年度より實行せらるゝ筈なり、故に同
級の授業時間の如きは却つて従前より増加せられたり。

●本年度理財科卒業生 本理財學會の會員たりし二百
九十九名の先輩は本年四月目出度大學の科程を卒業し愈々實社
會の人となられたり、吾人は茲に卒業生諸君に對し會て慕りし
指導の勞を謝すると共に其の前途の祝福を祈る者なり(川田生
記)